校長室だより
NO.　５８
令和２年３月23日

すべては光る

梅園小学校長
たか　す　りょうへい
高　須　亮　平

感動の卒業式　　～本年度ならではの創意で卒業生を祝う

３月１９日（木）、令和最初の本校の卒業式が堂々と行われました。卒業式のやり方については、新型コロナウイルス感染予防のため審議を慎重に重ね、規模の縮小、時間の縮減等の対応をした上での開催となりました。そのため、卒業生の子どもたちやご家庭の方々には多くのご協力をいただき、ありがとうございました。

学校としてはできるだけ例年と同じようにして、卒業生をお祝いしたかったのですが、感染防止のため、具体的には次のようなお願いをしました。

卒業証書を受け取る6年生

○　体育館での式への参加は、卒業生と保護者（１家庭１人）、来賓１名（ＰＴＡ会長）のみとしました。休校中ですので、在校生（４・５年生）の参加は代表２名のみで全員はできませんでした。

○　保護者の方には、２人以上みえることを予想して、体育館に入れない方は教室（１家庭１人）の大型テレビで式の様子を見ていただくことにしました。また、体育館の外からでも同様に大型テレビで見ることができるようにしました。

○　体育館内の椅子の位置は大きく間隔を空け、また、式中はすべての窓を全開として換気ができている状態として感染予防に努めました。式当日は偶然にも午前中は暖かい日となりました。天も味方をしていてくれるような気がしました。

○　卒業式の時間短縮のため、卒業証書授与では一人一人の礼を省いて簡略化を図り動きをスムーズにしました。また、市教育委員会からの記念品授与やＰＴＡ会長の磯部さんの来賓祝辞は省かせていただきました。

○　卒業生と在校生の呼びかけは、休校中のため練習をすることができませんでしたので、中学校のように代表の子どもが在校生「送辞」、卒業生「答辞」を行うようにしました。このようなことは、小学校ではここ３０～４０年で例がないことでした。しかし、代表の子どもが日頃から思ってきたことを素直に心を込めて話てくれましたので、逆に感動的でした。その送辞・答辞の内容は裏面に掲載しました。

○　卒業の歌については、２月後半から練習が始まっていましたが突然の休校で、子どもたちは歌うことができませんでした。しかし、本校は「梅園プライド」を毎回の音楽集会で歌ってきましたので、それを卒業の歌として歌うことができました。

最後の梅園プライドを歌う卒業生

そのような変更をしましたが、卒業式は無事に終えることができました。逆にそのような卒業式だからこそできることがあり、それが大きな感動を誘いました。それは、「卒業生退場」の典礼とともに子どもたちの前に立

We are the one

あなたの小さな命 それは一つだけ　　それは あなたの力 愛する地球に一つ
笑いと涙の数は みんな同じだけ　　時には　自分だけが　悲しいことが多いよ
　We are the one　　そんな時は みんな同じ気持ちさ
　小さな痛みわかったら　　みんな一つになれる

あなたの優しい心 それは一つだけ　　それは あなたの強さ すべての人に分け合おう
自分が自分でいられる 人といる時を　　いつも思い出して いやな心を捨てよう
　We are the one　　そしていつも みんな笑えるように
　小さな心わかったら　　みんな優しくなれる

あなたの大きな未来 それは一つだけ　　夢が叶うように 今を信じて生きよう
人の幸せを願う あなたも幸せ　　ずっと幸せを願う あなたでいてほしいのさ
　We are the one　　一人ひとり 願い信じて歩く
　小さな願い集まれば　　大きな夢が叶う

　We are the one
　　大きな力が 一人の力になる
　We are the one
　　その時こそ 私たちは一つになる

本来の卒業の歌「We are the one」とそれを歌う担任教師6人（写真）

った学級担任６人が、子どもたちが卒業の歌として歌う予定であった「We are the one」を見事に歌い上げたのでした。上がその歌詞です。この歌は、卒業の歌として、また教師から子どもたちへ贈る言葉としての意味をもっています。歌詞の３番「人の幸せを願うあなたも幸せ、ずっと幸せを願うあなたでいてほしいのさ」は、その最たる部分と思います。そんな突然の教師の姿を見て、子どもたちは驚きつつも思わず口ずさみ、また涙を見せ感動を表現していました。この１年で最もすばらしい瞬間の１つだったと思います。その後の退場の途中でも、他の教師が、右の写真のように学級ごとにかいた大きな絵を体育館背面に披露して、卒業生の今後の希望ある前途を祝しました。

体育館背面を飾った各学級の幕

また、教室で担任からの話を受けた卒業生を待っていたのは、学区の方々からのお祝いのメッセージ動画でした。本来であれば来賓として式に参加していただく学区の方々ですが、このような温かい贈り物を子どもたちにプレゼントしていただきました。

卒業式は新型コロナの関係で残念な部分はありましたが、逆に、教師や学区の方々から予期もしない思いやりあふれる温かい贈り物があり、子どもたちにとっては忘れられない小学校の卒業式となったことと思います。

学区の方々からの動画を見入る卒業生

○ 送　辞

【吉田】　柔らかな春の日差しを感じ、校庭のくすくんは新しい葉を芽吹かせています。サクラソウや菜の花も咲き誇り、本日のよき日をお祝いしているようです。ただ一つ残念なことは、今年は在校生全員で皆さんの卒業をお祝いできないことです。そのため、私たちが在校生全員の気持ちを込めてお祝いいたします。

【大野】　本日、この梅園小学校を卒業される１４５名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ぼくはソフトボール部員で、いつも皆さんをすごいと思っていました。それは、皆さんが、いつも声を掛け合っていたことでした。「ナイスバッティング」「ナイスキャッチ」と、相手を思いやったり、グローブでタッチしたりしていました。そんなチームワークのよさを感じていました。それが試合でも見られました。秋の球技大会のことです。梅園小学校は負けていました。それでも皆さんは「切りかえて」「次は打てるよ」と大きな声で励まし続け、あきらめていませんでした。仲間を信じていたのです。そんな瞬間でした。「カキーン」という快音がグランドに響き渡りました。逆転満塁ホームラン。そして大勝利。皆さんは仲間を信じ、自分のやればできる力を信じ、勝利につなげたのでした。そのことは、運動会の組立体操でも同じでした。失敗の多かった５年生とは違い、６年生の皆さんは、心を１つに自分たちの目標を目指していたことを感じました。そのときの真剣な目や歯を食いしばってがんばりぬく姿は、ぼくたちのお手本でした。だからぼくたちもがんばれたと思います。そのような姿を見て、自分もやればできる力を信じて、仲間を信じていきたいと強く思っています。

【吉田】　私も皆さんから多くを学びました。前期MAXとして、皆さんと一緒に七夕集会の準備をしていたときでした。そこで、私はどうしても忘れられない一言に出会いました。そのときは、どういう七夕集会にしようか、みんなで話し合っていました。「私たちの好きなゲームをやりたいね」「七夕の劇を面白くやりたいね」などと自分たちが楽しめることばかり考えていました。そんな中でした。皆さんの一人が「私たちが楽しむ会ではないよ。低学年や全校みんなが七夕集会を楽しいと思える会にしたいね」と言ってくれました。その一言で、私は、ぞくぞくっとするような感じがしました。そして、最上級生としての大きさを感じ、「６年生ってすごいな」と正直、思いました。通学班での登下校もそうでした。いつも私たちを気づかってくれる皆さんがいました。まだまだあります。あいさつ活動でも全校のみんなのことを考えてくれましたし、いじめのない梅園小学校にするために「ふわふわ言葉」を一生懸命に広げてくれました。いつも私たちのそばには優しい皆さんがいてくれました。たった１才違いですが、何かたのもしさを感じていました。まわりのことをいつも思いやる皆さんは、私の自慢の先輩です。

【大野】　皆さんが教えてくれた「やればできる力」「人のためになることをすること」それが、ぼくは梅園小学校の「梅園プライド」と思います。そんな「梅園プライド」を皆さんから学びました。私たちも皆さんの「梅園プライド」を受け継ぎ、この梅園小学校をよりよくしていきたいと思います。それでは、中学校での皆さんのご活躍を心からお祈りして、送別のことばといたします。

○ 答　辞

【鈴木】　今年の冬は暖かかったせいか、もうすでに正門の桜のつぼみがほころび始め、春を告げ、私たちの門出を祝ってくれているようです。私たち１４５名は、本日ここに巣立ちの時を迎えました。６年前、温かな家族に見守られ、小さな体に新しいランドセルを背負い、梅園小学校の校門をくぐりました。あの日からの梅園小学校での生活。振り返ると、次々に思い出がよみがえります。

私の一番の思い出は何と言っても部活動です。私たちのチームの目標は、先輩が果たせなかった市内大会１回戦突破であり、優勝でした。それをめざして力を合わせてがんばる。そんなチームが、私は大好きでし

た。しかし、最後の大会では、思い描いた結果を残せませんでした。試合後、みんなが落ち込む中、ある仲間が泣きながら言いました。「今日は負けちゃったけど負けたことを認めたくない」それを聞いた瞬間、涙があふれ、多くのことが頭をよぎりました。部活動がないときに、仲間で声を掛け合って梅園公園でフォーメーションの練習をしたこと、試合形式で3対3の練習を真剣にやったことを思い出しました。みんな試合に勝つことだけを考えていました。また、練習試合で負けたときのことも思い出しました。みんなでマイナス面ばかりを指摘し合い暗い雰囲気になったり、心にもないことを言って仲間を傷つけ、時に衝突したりしたこともありました。でも、いつも声を掛け励まし合った仲間がすぐ隣にいてくれました。そんなことを今思うと、私たちは試合では勝てませんでしたが、その代わりにかけがえのない仲間を得ることができました。みんなで力を合わせて一生懸命、部活動に向き合ってきて本当によかった、そう思います。

【安原】　ぼくには小学校生活で忘れられない人との出会いがありました。4年生の時のことでした。ぼくは、なわ跳びでできない技があるとすぐにあきらめてしまったり、時には友達に強く当たり、けんかをしたりすることがありました。そして叱られ、ふてくされている時、担任の千帆先生がぼくに言いました。「楓人はできないんじゃない。やらないだけ。楓人ならやれるよ。」その言葉は、ぼくにやる気と勇気を与えてくれました。しかし、5年のマラソン大会ではまた簡単にあきらめてしまう自分がいました。もうそこには千帆先生はいません。どうすればいいかは頭で分かっているのに、心と体がうまく動きませんでした。そして、6年後期のありんこ決め。ぼくの心の中には、自分を変えてみたい自分と、そうでない自分が入り交じっていました。そのとき、これが最後のチャンス、もし生かさなければ自分に負ける。そんな思いと学級の雰囲気が後押しし、ぼくはMAXに立候補し選ばれました。それからぼくの本当の挑戦が始まりました。学芸会では、友達とよりよい演技について思う存分に話し合うことができるようになり、またどんどん上達する友達をうれしく思えるようになりました。マラソン大会でも自分を信じて、あきらめることなく目標に向けた努力ができました。「We ♡ 梅園」の活動では友達と意見が合わなくてもとことん話し合うことができました。千帆先生の言葉は、梅園プライドの歌詞の「信じようやればできる」のとおりです。そのことに今気づく自分がいますが、それがぼくの小学校での大きな宝物になりました。それでは、みんなで「やればできる力」を信じて最後の「梅園プライド」を歌いましょう。　[梅園プライド合唱]

いよいよ旅立ちの時がやってきました。ささいなことで大笑いした大好きな仲間。辛い時は励まし合い一緒に壁を乗り越えてきた大切な仲間。この145人の仲間で思い出いっぱいの梅園小学校で過ごすことができてよかった。みんなが仲間でいてくれて本当によかった。本当にありがとう。どんな時もぼくたちのことを考えて優しく、時には厳しく、ぼくたちを見守り指導してくださった先生。ありがとうございました。そして、ずっとぼくたちを支え続けてくれた、お父さん、お母さん、家族のみんな。時には素直になれず、迷惑をかけてごめんね。でもいつもぼくたちの味方でいてくれて本当にありがとう。これからもぼくたちを見守ってください。今心を込めて、多くの方々に感謝の気持ちを伝えます。本当にありがとうございました。

【鈴木】　突然の休校。その休校中、気付いたことは当たり前だった梅園小学校での生活の大切さでした。みんなと過ごす時間が楽しくて、かけがえのないものだったと心から感じました。先生、この1年、みんなで心一つにがんばってきたことを歌った卒業の歌「We are the one」をここで歌えなくてさみしいよ。みんなと先生で歌いたかったよ。でも、この梅園小学校でたくさんの思い出ができました。本当にありがとうございました。校訓「めあてを高くできるまでやれ」を胸に深く刻み、やればできる力を信じる「梅園プライド」をもって私たちは輝ける明日に向かい梅園小学校を巣立ちます。

いよいよお別れの時です。さようなら、在校生の皆さん。さようなら、先生。そして、大好きな梅園小学校、さようなら。

○　中日新聞（３月２０日・金）朝刊

小学校卒業式 新型コロナで縮小

「当たり前」の大切さ気付いた

来賓で参加できなかった人や、地域の人からのお祝いのビデオメッセージがスクリーンに映し出された

教員が休校期間中に作った垂れ幕の前で写真を撮る卒業生ら＝いずれも岡崎市稲熊町の梅園小で

西三河地域の小学校で十九日、卒業式が開かれた。新型コロナウイルス感染症の影響で式典は感染拡大を防ぐために規模を縮小。岡崎市立の全四十七校では、卒業生が笑顔で校舎に別れを告げた。

岡崎市稲熊町の梅園小では保護者の参加人数を各家庭で一人に制限。教職員のほかは来賓一人、在校生代表二人が出席した。卒業生全員が学校に集まるのは、臨時休校になって以来初めて。式直前には約一時間の予行練習が行われた。

本来は卒業生と教員が式中に一緒に合唱する予定だった歌も、練習時間がなく取りやめになっていた。しかし式本番では、担任教師らがその歌を卒業生の前で合唱。思わぬ先生からのプレゼントに涙を流す児童もいた。

また、担任以外の教員が休校期間中に紙で作った大きな垂れ幕も披露。クラスごとに子どもたちの元気な姿を描き、百四十五人の門出を祝った。

「規模は縮小したが今回しかできない卒業式を目指した。全員が少ない時間の中でやり遂げてくれた」と高須亮平校長は話した。式後には、参加できなかった来賓や梅園学区の地域住民から寄せられた祝いのビデオメッセージが会場のスクリーンに映し出された。

卒業生の本田咲莉さん（一二）は「先生たちの歌に感動した。休校になって、当たり前の生活の大切さに気付いた。無事に友だちと一緒に卒業できてよかった」と話した。（土屋あいり）